



TOPICS

- Vision 2030の実現に向けて p6
- ESG経営の基本的な考え方 p12
- 重要課題（マテリアリティ）の特定 p13
- ESG経営の監督・推進体制 p16
- ESG経営の重要課題（マテリアリティ）とKPI p17

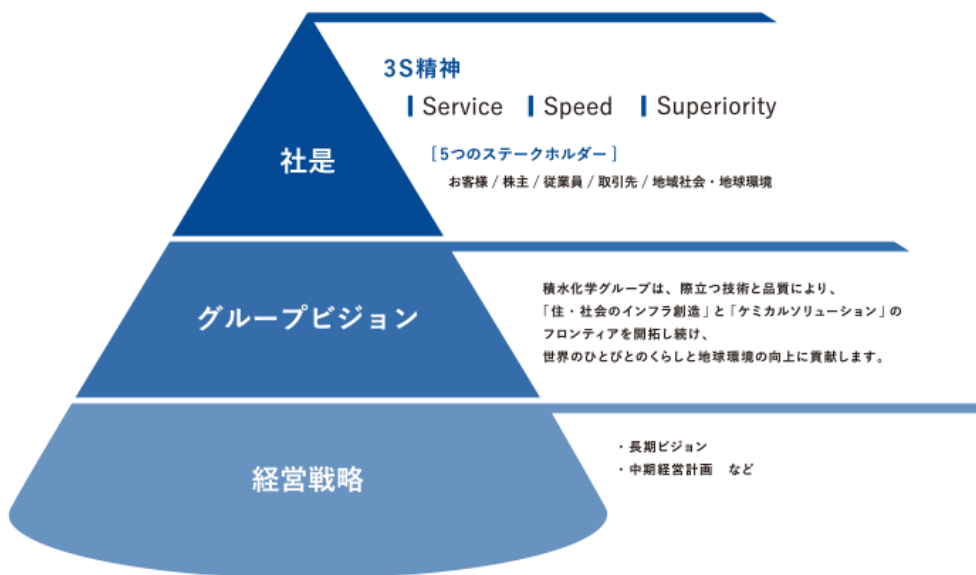
長期ビジョンとESG経営

2030年までの長期ビジョン「Vision2030」で「サステナブルな社会の実現に向けて、LIFEの基盤を支え、“未来につづく安心”を創造する」をビジョンステートメントとして掲げ、「ESG経営を中心にといった革新と創造」で、現有事業の拡大と新たな事業創出を通じ、社会課題解決への貢献拡大を目指しています。

Vision 2030の実現に向けて

積水化学グループの理念体系

積水化学グループの経営に対する理念体系は、企業活動の根底にある考え方や方針を示す「社是」、「社是」を受けて中長期でグループが目指す姿を示した「グループビジョン」、「グループビジョン」を実現していくための具体的な「経営戦略」によって構成されます。



社是～3S精神～

Service（サービス）：企業活動を通じて社会※的価値を創造する
 Speed（スピード）：積水を千仞の谿に決するスピードをもって市場を変革する
 Superiority（スペリオリティ）：際立つ技術と品質で社会※からの信頼を獲得する

※社会：「5つのステークホルダー」（「お客様」「株主」「従業員」「取引先」「地域社会・地球環境」）をはじめとした社会全体

グループビジョン

積水化学グループは、際立つ技術と品質により、「住・社会のインフラ創造」と「ケミカルソリューション」のフロンティアを開拓し続け、世界のひとびとのくらしと地球環境の向上に貢献します。

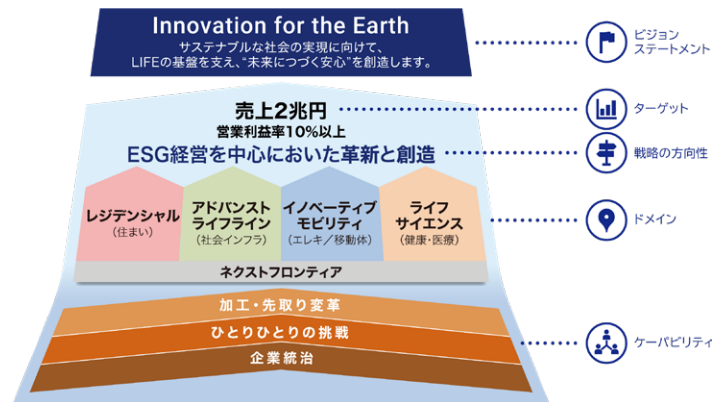
理念体系の「社是」「グループビジョン」などの詳しい内容は、以下のWebサイトをご覧ください。
<https://www.sekisui.co.jp/company/vision/philosophy/>

長期ビジョン「Vision 2030」

長期ビジョン「Vision 2030」は、社是、グループビジョンを受け、経営戦略の橋渡しをするものです。「Vision 2030」では、「サステナブルな社会の実現に向けて、LIFEの基盤を支え、“未来に続く安心”を創造していく」ためにイノベーションを起こすという強い意志を込めたビジョンステートメントを掲げています。

「ESG経営を中心においた革新と創造」を戦略の軸に、「製品・事業の革新による現有事業※の拡大」と、「新事業基盤の創造・獲得による新たな事業の創出」を両立させ、イノベーションを起こすことで、これまで以上に社会課題解決への貢献を図っていきます。このサイクルによって2030年には当社グループの業容そのものを倍増（売上2兆円、営業利益率10%以上）させるビジョンを描いています。

※レジデンシャル（住まい）、アドバンスライフライン（社会インフラ）、イノベティブモビリティ（エレキ/移動体）、ライフサイエンス（健康・医療）の4事業領域



長期ビジョンの全体像

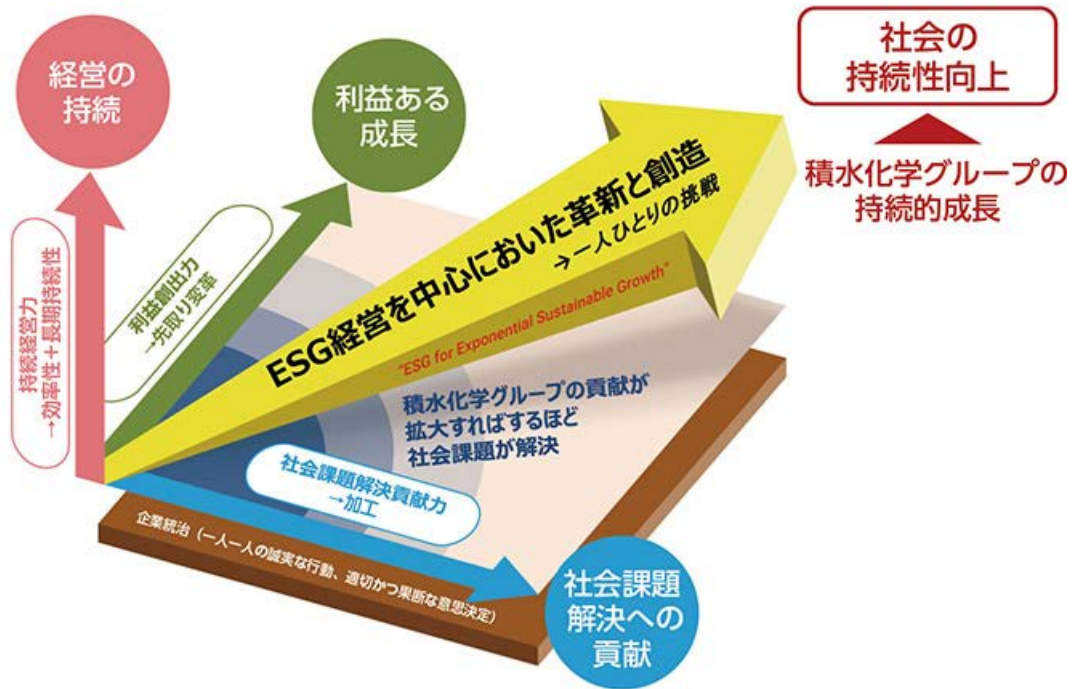
長期ビジョン「Vision 2030」についての資料は以下よりご覧ください。

長期ビジョンおよび中期経営計画説明会（2020年5月22日開催）

https://www.sekisui.co.jp/ir/event/vision/_icsFiles/afieldfile/2020/06/15/20200522kg.pdf

ESG経営

「ESG経営を中心においた革新と創造」とは、「Vision 2030」の実現の鍵となる3つの推進力「社会課題解決貢献力」「利益創出力」「持続経営力」を強化し、「サステナブルな社会の実現」と「積水化学グループの持続的な成長」の両立を目指すものです。



「持続経営力」について

持続経営力の強化に向けたKPIとしてROICを導入

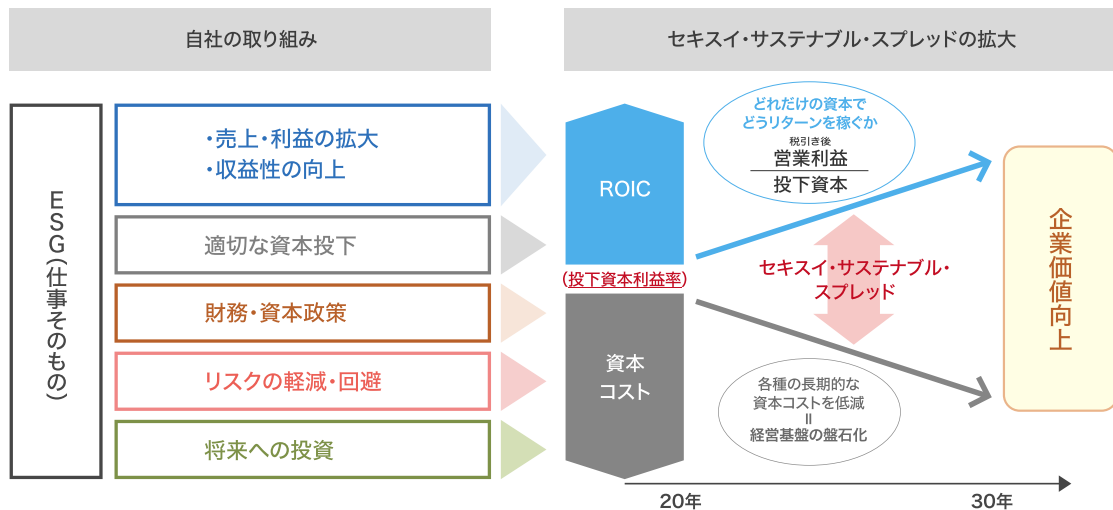
効率性の指標としてROICを導入し、中長期的に向上をはかります。そのために、限界利益の拡大や生産性向上などにより“利益率”を向上させ、適切な資本投下や工場稼働率向上、在庫適正化などにより“回転率”を高めていきます。

資本効率向上と長期的な広義の資本コスト低減により、企業価値を向上

「セクスイ・サステナブル・スプレッド (ROICスプレッド)」をROICと長期的資本コストの差と定義し、その拡大により企業価値を高めていきます。

重大インシデント抑え込み、経営基盤への投資により、広義の資本コストを抑制し持続経営力を向上

重大インシデントにつながるリスク軽減に向けたガバナンス (内部統制:安全、品質、会計、法務・倫理、情報管理、リスクマネジメント)、DX (デジタル変革)、環境、人的資本などへの投資を、ESG投資枠の設定により拡大し、中長期的な資本コスト抑制に取り組み、持続経営力を高めていきます。



現中期経営計画の総括

現中期経営計画「Drive 2022」では、「ESG経営の実践」を基本戦略に掲げ、「成長と改革」「長期への仕込み」「ESG基盤強化」に取り組んでできました。売上高は過去最高の12,425億円（目標12,200億円）、営業利益はコロナ長期化による需要変化や原料高影響を受け917億円（目標1,100億円）、ROICは7.6%（目標8.6%）に留まりましたが、3つのDriveへの取り組みをコロナ禍においても着実に前進させています。

成長と改革(現有事業Drive)

構造改革を前倒し、高付加価値品シフト加速、原料高騰に対応した価格転嫁

長期への仕込み(新事業Drive)

まちづくり、バイオリファイナリ、ペロブスカイト太陽電池など新事業テーマ前進、ライフサイエンス領域の拡大検討進展

ESG基盤強化(経営基盤Drive)

5つのマテリアリティ (ガバナンス (内部統制)、環境、DX、人的資本、融合 (イノベーション)) とサステナビリティ貢献製品に各々KPIを設定し、経営資源を投入して全社施策・カンパニー施策を展開・進展

次期中期経営計画「Drive 2.0-The 2nd Phase for 2030-」

Drive 2.0

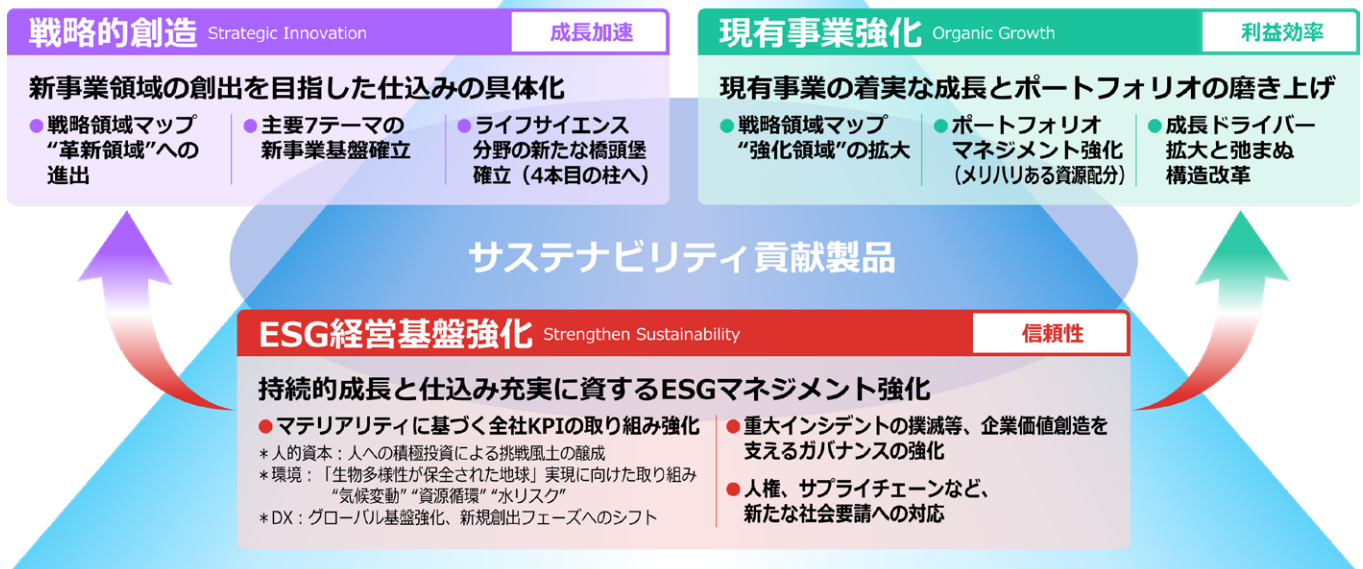
— The 2nd phase for 2030 —

— 方針 —

“持続的成長”と“仕込み充実”により、長期ビジョンの実現を目指す

— 基本戦略 —

企業価値向上への3つの取り組み



長期ビジョン「Vision 2030」に向けた第2段階目となる中期経営計画「Drive 2.0 - The 2nd phase for 2030 -」の基本戦略は「企業価値向上への3つの取り組み」です。「戦略的創造」「現有事業強化」「ESG経営基盤強化」に組み込み、“持続的成長”と“仕込み充実”を両立させていくというものです。最終年度の2025年度には、売上高1兆4,100億円、営業利益1,150億円、ROIC8.5%の達成を目指しています。

戦略的創造(Strategic Innovation)

新事業領域の創出を目指した仕込みの具体化を進めています。具体的には、長期ビジョン実現への羅針盤として策定した戦略領域マップにおける「革新領域でのイノベーション創出と主要7テーマの事業化推進」を目指しています。

現有事業強化(Organic Growth)

現有事業の着実な成長とポートフォリオの磨き上げを進めています。具体的には、戦略領域マップにおける「強化領域の拡大」、「ポートフォリオマネジメントによるメリハリある資源配分の実行」と「成長ドライバーの拡大と弛まぬ構造改革」を行っています。

ESG経営基盤強化(Strengthen Sustainability)

持続的成長と仕込み充実に資するESGマネジメント強化を進めています。ESG強化費として次期中期は550億円（設備投資＋費用）を設定し、重大インシデントにつながるリスク軽減活動や、DX（デジタル変革）・人的資本・環境など中長期的な施策に積極的に取り組んでいます。

次期中期経営計画「Drive 2.0」の資料は、以下よりご覧ください。

- ・積水化学グループ中期経営計画「Drive 2.0」の策定について

https://www.sekisui.co.jp/news/2023/___icsFiles/afieldfile/2023/05/23/230523.pdf

- ・中期経営計画説明会（2023年5月23日開催）資料

https://www.sekisui.co.jp/ir/event/vision/___icsFiles/afieldfile/2023/05/23/20230523kg_4.pdf

ESG経営の基本的な考え方

積水化学グループのESG経営では、「サステナブルな社会の実現」と「当社グループの持続的な成長」の両立の実現を目指し、その鍵となる「①際立ち」「②社会課題解決」「③未来につづく安心」の3つのステップをステークホルダーとともに取り組んでいます。現中期経営計画はまず「持続経営威力の強化、資本コストの低減」に焦点をあてて取り組んでいましたが、次期中期経営計画はさらに成長戦略に資する取り組みに発展させていきます。



ESG経営概念図

3つのステップ

① 際立ち

社会に信頼される企業体制を、「ガバナンス（内部統制）」を通じて実現し、際立つ「人材」の挑戦を原動力に、「環境」「CS品質」で圧倒的な差異を持つ製品・サービスを生み出していく。

② 社会課題解決

「際立ち」をもとに、3つのアプローチ（貢献の量を増やす、貢献の質を高める、これらを持続的に提供していく）で社会課題解決を加速

③ 未来につづく安心

未来の世代も含めたあらゆる世代に安心してもらえるよう「未来につづく安心」という価値を、4事業領域（レジデンシャル、アドバンストライフライン、イノベティブモビリティ、ライフサイエンス）で創出・拡大

重要課題（マテリアリティ）の特定

長期ビジョン「Vision 2030」の実現の鍵となるESG経営をさらに強化していくため、重要課題を見直し、ガバナンス（内部統制）、DX、環境、人的資本、融合（イノベーション）に軸足を置いて取り組みを進めています。

重要課題の抽出と特定

下記のプロセスに基づき、重要課題を特定しています。

ステップ1：課題の抽出

以下の観点から、課題を網羅的に抽出しました。

①当社グループ

- ・企業理念体系（社是、グループビジョン、2030年長期ビジョン）
- ・各種方針
- ・従業員意識調査
- ・各会議体での議論内容

②社会要請

- ・各国の規制・ソフトロー
- ・社外のステークホルダーの意見・期待（お客様アンケート、株主・投資家ダイアログ、NPO）
- ・社外有識者の意見（アドバイザリーボード）
- ・評価機関、お客様によるESG調査項目・内容
- ・グローバルガイドライン（国連グローバルコンパクト、ISO26000、GRIスタンダード、SDGs、TCFD、IIRC、SASB、OECD多国籍企業行動指針）

③他社動向

- ・統合報告書、サステナビリティレポート
- ・グローバルコンパクト分科会などでの意見交換

ステップ2：重要課題の特定

「A.ステークホルダーにとっての重要性^{※1}」と「B.積水化学グループにとっての重要性^{※2}」の両軸で優先順位付けをし、サステナビリティ委員会で審議のうえ、特定しました。

※1 「SEKISUI環境サステナブル・インデックス」を活用し、地球・社会へのプラス・マイナスの影響の大きさを考慮

※2 将来財務インパクトの大きさを想定、ROICや資本コストの考え方を反映させた「セキスイ・サステナブル・スプレッド」を活用

ステップ3：重要課題の承認

サステナビリティ委員会で審議された重要課題を、取締役会にて最終承認。

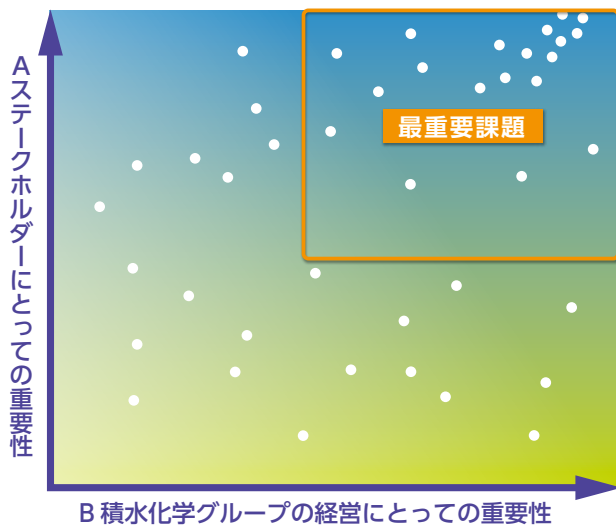
なお、重要課題については、3年ごとの中期計画策定時に見直すことを原則としますが、自社グループの状況、社会情勢等の変化等を踏まえ、変更の必要性を毎年検討します。

重要課題の執行とモニタリング

特定した重要課題については、コーポレート・カンパニーの各主管部門および関係部門が活動計画および目標を策定、経営会議で審議・承認のうえ、実行しています。

その活動進捗については、それぞれ年2回開催する予算会議、サステナビリティ委員会、分科会でモニタリングしています。

積水化学グループの重要課題(2020-2022)



〈ガバナンス(内部統制)〉

- ～企業価値を毀損する業務リスクをグループ・グローバルで低減～
- 重大インシデントの抑制(安全、品質、会計、法務・倫理、情報管理)
- リスクマネジメント(BCP)
- ・サプライチェーンリスク低減
- ・人権デューデリジェンスの実施

〈DX〉

- ～DXを契機に業務プロセスを見直し、生産性を抜本的に向上～
- 見える化・標準化(業務標準化、ERP導入、インフラ・ネットワーク刷新)
- 生産性向上(自動化/無人化、デジタルICT・AI利用による全業務効率化)
- 高度化(事務管理、ガバナンス(内部統制)、サプライチェーンの高度化)

〈環境〉

- ～事業活動でのGHGや廃棄物を減らし、サステナブルな経営へ転換～
- 気候変動の緩和・適応
- サーキュラーエコノミーの推進
- 水リスクの低減
- ・生態系劣化の抑制

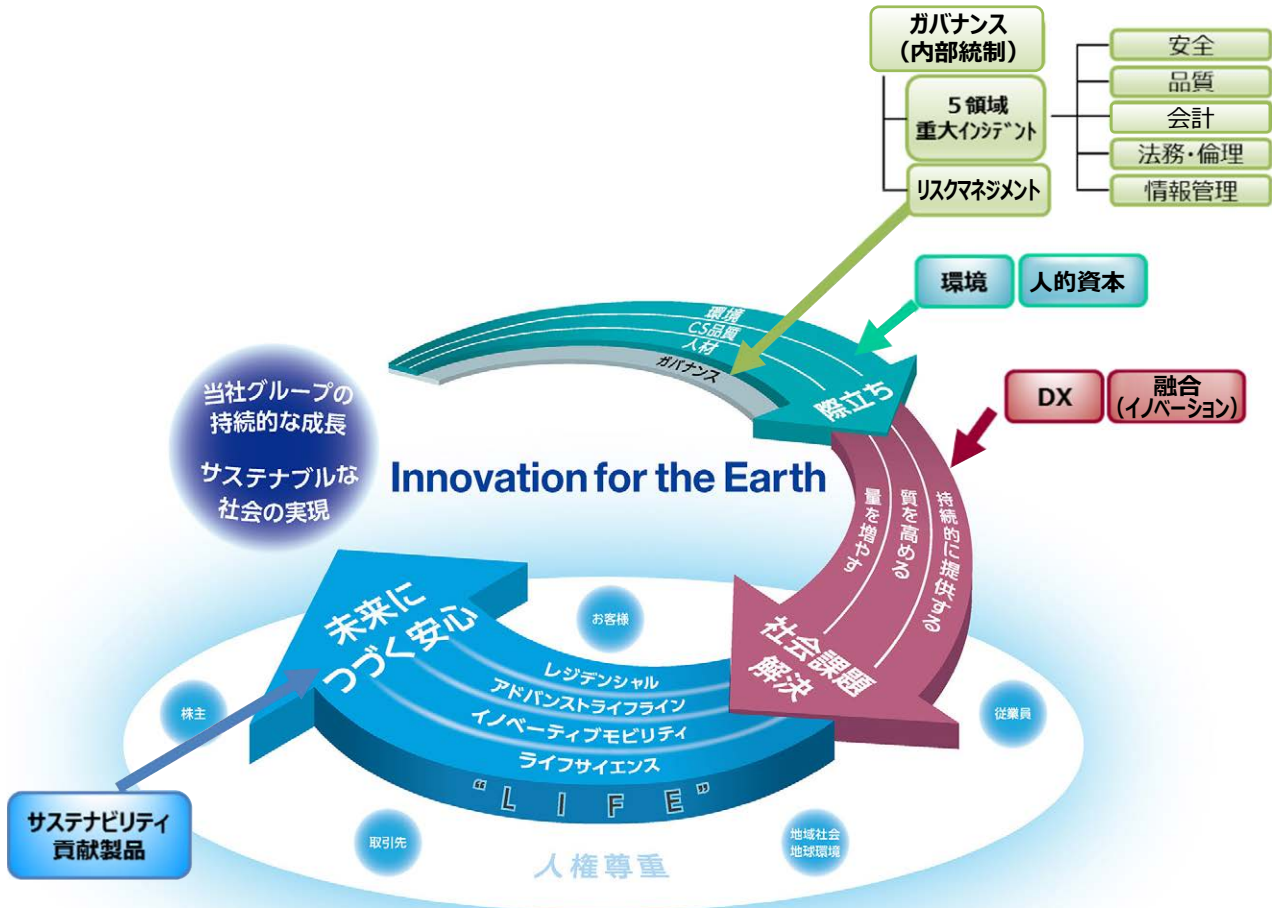
〈人的資本〉

- ～従業員がイキイキと活躍できる風土、自ら挑戦する文化を構築～
- 挑戦する風土・従業員積極参画への変革(文化醸成、人材育成、制度設計)
- ・ダイバーシティ経営、グローバル化推進
- ・健康経営

〈融合(イノベーション)〉

- ～既存領域での新製品開発・上市やプロジェクトを着実に推進、新事業領域の創出へ脱自前でスピードとインパクトを極大化～
- サステナビリティ貢献製品のさらなる創出と市場拡大
- オープンイノベーションの促進
- ・知的財産戦略の強化
- ・地域と連携した課題解決に資する活動の推進

ESG経営概念図における重要課題の位置づけ



ESG経営の監督・推進体制

取締役会、サステナビリティ委員会、7分科会による監督・推進体制

積水化学グループでは、監督機能としての取締役会と、執行機能としての「サステナビリティ委員会」および傘下の7分科会からなる監督・推進体制により、ESG経営をグループ一体で進めています。

取締役会：

サステナビリティ委員会で審議した方針・戦略、全社リスクについて年2回報告を受け、最終決定するとともに、サステナビリティに関する執行側の取り組みを監督しています。

サステナビリティ委員会：

社長を委員長、ESG経営推進部担当専務執行役員を副委員長とし、住宅カンパニー、環境・ライフラインカンパニー、高機能プラスチックカンパニーの各プレジデントを含む業務執行取締役で構成され、年2回開催しています。

委員会では、将来当社グループが直面する可能性のある全社的なリスクや機会を抽出・特定してマテリアリティを適宜見直すとともに、全社方針やKPIの決定、全社実行計画の策定を行います。また各分科会委員長による報告を受け、各マテリアリティの取り組み状況をモニタリングしています。

分科会：

サステナビリティ委員会の傘下組織として、当社グループのマテリアリティに関わる「環境」「CS品質」「人材」「安全」「コンプライアンス」「サイバーセキュリティ」「DX」の7分科会を設置しています。

各分科会は、コーポレートの担当役員を委員長とし、3カンパニーの担当役員および各カンパニー、コーポレート、コーポレート傘下のメディカル事業の主管部門長で構成され、年2回開催。「サステナビリティ委員会」の決定内容に基づいたカンパニー別の具体施策立案と実行計画への落とし込み、取り組み状況のモニタリングを行います。その結果を各分科会委員長が「サステナビリティ委員会」に参加して報告、審議を行っています。

サステナビリティ委員会・分科会体制

